平成26（2014）年
6月1日
第157号 毎月発行
編集 公民館だより編集室
発行 西東京市公民館
毎月第4月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

今月号の内容

2面…農業を知る講座、保育付講座、人権講座ほか
3面…被災避難者交流事業フラダンスで健康づくり、市民レビュー♪CD、夜間自習室開設のご案内、公民館市民企画事業ほか
4面…サークルから、公運審コラム、まちがいさがし

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042・464・8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042・461・1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042・461・9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042・421・3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042・424・3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042・421・1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

STOP 教育格差

～市内での活動を通して考える～

家庭の経済状況が子どもの教育に影響を与える「教育格差」が問題になっています。育った家庭環境で子どもの可能性を閉ざしてはならないでしょう。この課題に対して地域社会が果たせる役割を考えてみませんか。

「平成25年度全国学力・学習状況調査」の一環として行われた「保護者に対する調査」について抽出調査・分析が行われました。その結果、家庭の年収と学力調査結果との相関関係が明らかになりました。

日本では子どもの貧困率（注）は年々悪化しています。今では子どもの約6人に1人が貧困の状態にあります。

子どもの貧困対策法も成立しました。法律では、国、自治体は貧困の状況にある子どもと保護者に対する、教育や生活の支援をすることとなっています。私たちには何ができるでしょうか。厳しい経済状況にある子どもに無料で学習支援を行っている、市内の2つの取り組みを訪ねてみました。

一家で子どもを応援

南町の岸田さん一家は、週1回自宅を開放して中学3年生に勉強を教えています。名付けて学び塾「猫の足あと」。岸田久惠さんは小学校の教員です。教職員組合の専従を務めていた時期に子どもの貧困問題に取り組んだことがきっかけとなりました。自身の家庭でも支援ができないかと家族に相談したところ、夫や子どもも賛同してくれました。3年前に「猫の足あと」をオープンしました。

現在5人の生徒が通っています。勉強を教えるのは長女で大学院生の有理さんとその友人の大学生、長男の真輝人さんも加わることもあります。取材に訪れた日には、以前ここに来ていた子どもの保護者から、ペットボトルのお茶が届けられました。

45分間の勉強中、久惠さんはキッチンで調理です。30分の休憩時間には生徒と先生とで夕食を共にします。「緊張していた子も、一緒に食事をすることで素顔を見せるようになってくるんですよ」と久惠さん。経済的に厳しい家庭では食事を子どもだけで摂りがちではないかということも久惠さんの頭にありました。高齢者や子育ての支援を展開している「とねりこサロン」（向台町・泉町）のチャリティコンサートの収益から、食材の提供を受けてもいます。

「猫の足あと」で学ぶ生徒たち

生徒たちも志望校を考え始める時期です。「サッカー部なので、高校もサッカーが強い学校に行きたいんです」と一人の男子は言います。

成功体験を与えたい

火・水・木曜日に田無総合福祉センター、土曜日は東伏見ふれあいプラザで子どもたちに勉強を教えているのは「NPO法人 稲門寺子屋西東京」です。できるだけ多くの児童・生徒を受け入れるために、1人週1回、1科目に限っています。小学5年生から中学3年生まで、現在50数人が通ってきています。指導者は20数名で指導者1人に児童・生徒2人の組み合わせが基本です。早稲田大学のOB会である西東京稲門会が、市制10年を機に地域のために何かできないかと始めました。今では指導者の3分の2は稲門会以外から参加しています。

「私たちは勉強するキッカケづくり、習慣づくりを行いながら、自分にもわかった、できた、という成功体験を持ってもらい、自らのやる気を伸ばしてもらいたいのです」と理事長の小嶋さんは語ります。

入会時には家で勉強をする習慣のない子どもがかなり多く、学校の授業中もずっと下を向いている子もいます。そんな子どもが、家で机に向かうようになった、成績が上がった、という声を聞くのが指導者・スタッフのみなさんの喜びです。

6年生に算数を教える女性は元教員。「横道に逸れず大人になった姿を見るのが楽しみです」と語ります。

別の男性スタッフは、好きな言葉は「だからどうする?」だと言います。「困った」「できない」をそのままにしないように心がけています。

それぞれの立場でできることを

「猫の足あと」の岸田久惠さんは、「力になりたいと思っている人はたくさんいると思う。みなさんが少しずつでもできることをすることから、子どもたちの将来を開いていきたい」と話します。

「稲門寺子屋」の小嶋さんは「これからは、同様の取り組みを始めようとする人を手伝うことで、輪を広げていきたい」と言います。

経済的に厳しい家庭では保護者が孤立しやすい状況にあり、情報から取り残されることで子どもが不利益になることも多いようです。

厳しい時代だからこそ、地域全体で不利な立場の人たちを支える仕組みが求められています。

注…貧困率：全世帯の所得の中央値の半分未満の所得（平成21年度で年125万円）の世帯の割合

学び塾「猫の足あと」：岸田
✉hisae.kishida@gmail.com
稲門寺子屋西東京：
http://www.terakoya-nt.org/
小嶋080・4125・1038

担当者からの講座報告

マクロビオティック講座

体にやさしいスイーツ作り

（3月8日 芝久保公民館）

マクロビオティックとは玄米菜食を中心に免疫力を高める食事法のこと。講座ではマクロビオティック本来の考え方や体に良い食材を学び、サツマ芋やドライフルーツなど野菜や果物の色や甘みを生かすスイーツ作りを体験しました。アンケートに「先生の人柄と知識の多さに惹かれた」「自然の味を大切にして子どもに食べさせたい」とあり、20代の女子学生から80代の男性まで楽しく交流できました。

サークル訪問

仁武会

～青少年の健全育成のために～

谷戸小学校や谷戸幼稚園、谷戸公民館で活動する子どもの武道サークル「仁武会」を取材しました。会員数は25人。会員の中には幼稚園児から中高生までの子ども達に混じり、汗を流すお母さんもいます。

同会は西東京市大会で活躍するほか、全国少年少女練成大会でも4年連続活躍するだけあって、子ども達の練習に取り組む姿勢は真剣そのもの。全体練習では掛け声を響かせ、技を次々に繰り出していました。そんな子ども達に、「構えや技が中途半端。基本が一番大事だ」と、厳しい指導の声が飛びます。

全体練習の後は、子ども達が互いに技を教えあう時間。そこでは中高生が、幼稚園児や小学生に教える姿も見られました。

小学4年の冨永真杜君は、「がまん強くなり、集中力が付いた」と語り、5年の小堺志穏君は、「ここに通いだして足が速くなったり、運動神経が良くなった」と自信をのぞかせます。活動は月8回、火・土曜日17時から。現在会員募集中です。

森☎090・3452・8075